

学習成果の活用についての意識化

家政教育・金子 省子

1. 授業科目の概要

家政教育専修及び生活環境コースの選択科目である。家庭科教員免許状の選択科目であり、保育士資格の「保育の本質・目的の理解に関する科目」群の必修科目である。授業の目的は「家族・地域など児童を取り巻く環境の現状をふまえ、児童福祉の理念、制度、方法、諸領域に関する課題について理解する」である。

受講生は、27名で、学校教育教員養成課程3・4回生9名（家政教育専修3名、保育士コース6名）、総合人間形成課程3回生17名（生活環境コース15名、人間社会デザイン2名）、教職大学院2回生1名だった。

授業形態は、講義が中心である。教科書を使用し、毎回の授業概要のレジュメ及び関連する資料を配布、一部パワーポイントを用い児童虐待等に関するビデオを視聴した。このほか、グループごとにディスカッションをする時間を複数回設けた。

授業時間外学習として、地域の保育・子育て支援についての情報収集などを課した。また、教科書の該当箇所の予習・復習や児童虐待、子ども・子育て支援新制度等に関する厚労省サイトの閲覧を促した。

評価は、第7回で前半部分の理念・法制度・実施体制についての確認テストを行い知識の定着を確認し、第15回で最終試験を実施して、各回の提出物を含め評価した。

2. 授業アンケートの結果に基づく分析

(1) 授業のDPアンケートの結果

主として学部DP1（知識・理解）に関する科目として、次の4点についての知識・理解に関して到達目標を掲げている。1.児童問題・児童福祉の歴史的展開、理念 2.法制度と実施体制 3.保育、児童養護、健全育成などの諸領域についての施策の現状・課題 4.児童の権利条約の視点から捉えた児童福祉の課題

DPアンケートの回答結果は、今回総合人間形成課程の回答率が極めて低かったため、学校教育教員養成課程の回答（11名中7名回答）についてみた。講義の主なねらいとしている知識・理解で

は1A：教育に関する確かな知識については「とてもそう思う」3名、「ある程度そう思う」が4名だった。1B：専門分野の知識については「とてもそう思う」3名、「ある程度そう思う」4名だった。一方2A：教育をめぐる現代的課題について、回答者全員が「とてもそう思う」としており、全項目の中で最も評価が高く、福祉の学習が、教育の今日的課題についての学習につながったとの認識が捉えられた。

授業時間外学習では、自発的読書が0.43冊、「課題」への取組みが平均0.86時間で、自発的学習についてはほとんど回答されず、課題についての授業時間外学習時間も多いたとは言えないことから、課題の提示などを再検討する必要があると考える。

(2) 授業についての独自アンケートの結果

5段階評定（a：強くそう思う b：ややそう思う c：どちらとも言えない d：あまりそう思わない e：全くそう思わない）で回答を求めた。このほか、良かった点と改善すべき点については自由記述で回答を求めた。第15回に実施し、回答者数は27名だった。

1～5点（a：1点～e：5点）で点数化し平均値を求めた。その結果は以下の様である（設問(5)は「とても難しい」から「とても容易」までの5段階）

- (1)「出席状況の良好さ」1.6
- (2)「シラバスの提示、予定の伝達など」1.2
- (3)「授業テーマと構成・展開の明確さ」1.7
- (4)「教科書使用の適切さ」2.0
- (5)「進度や難易度の適切さ」（「やや難」が16名、「適切」が11名）
- (6)「意見の発表や意見交換の機会の保障」1.4
- (7)「授業時間外学習課題の適切さ」1.4
- (8)「今後意欲をもって学びたい課題の発見」2.0

以上のように平均値では1.2から2.0で概ね肯定的な回答結果であった。(5)の進度・難易度は「やや難」が16名、「適切」が11名でやや難しいと感じている学生のほうが多い結果だった。

「授業構成」については、前半の法制度全般に関する知識の定着部分でのグループワークを増

やしたことから、後半回に複数領域を短時間でやるなど、予定が後ろにずれこんだ回があったことから、授業時間外学習課題の設定や教科書の予習など、再度見直しを図る必要がある。

・自由記述

「良かった点」は、ほぼ全員が記述しており次のように整理される。

<学習内容について>

- ・法制度の背景や時代的な流れがわかった。
- ・問題の背景と改善点まで深く知ることができた。
- ・今後自分に役立つ情報が得られた。
- ・子育て支援や手当などについて知り、将来にわたり知っておくべきことが分かった。
- ・子どもや子どもを取り巻く環境の問題点について幅広く知ることができ、これから、どのようにしたらよいのかを考えたいと思うようになった。
- ・将来の保育者として他人事でない内容で積極的に学べた。

<学習方法について>

- ・新聞記事など最新の情報が配布されたので現状を把握しやすかった。
- ・多くの資料がありわかりやすかった。
- ・記事や教科書などグループで話し合い考えを深められた。いろいろな意見が聞けた。
- ・グループワークで各自が調べたことをそれぞれ報告することで、理解が深まった。
- ・課題が適度に出された。
- ・DVD や話し合いが適切に取り入れられていた。
- ・授業ごとに問題分野がはっきりしておりわかりやすかった。
- ・参考図書が今後役に立つと思う。

「課題と考えられる点」

- ・配布資料をわかりやすくしてほしい。教科書などとの関係など。
- ・ワークシートをわかりやすくしてほしい。
- ・レジュメをもっとくわしくしてほしい。
- ・板書をもっとしてもらえると授業についていきやすい。
- ・パワーポイントの切り替えが早いのももう少しゆっくりしてほしい。
- ・教科書のどこの話なのかわからなくなることがあった。
- ・意見交換の機会がもう少し多いとよかった

(3) まとめ・昨年度との比較から

以上のアンケート結果から次のような点が課題と考えられた。

受講生は授業内容の現在、および将来にわたってもつ意義について概ね理解している。配布資料などの活用、グループワークの効果などについて

も理解しているとみられた。一方、進度・難易度で「やや難」の学生が多く見られ、前半部分の確認テストの知識の定着度に個人差が大きかった。レジュメについて複数の学生がよりくわしいものを求めていることもふまえ、教科書とレジュメ、資料間のつながりを十分に理解できるような働きかけ、工夫をしていく必要がある。また、法制度全般についての情報が多い前半部分で、今年度新たにグループの一人が1つの法律を担当して、互いに質問し回答するという指示で積極的に調べ学習ができるように促したが、さらにきめ細かな説明や課題の提示が必要と考える。

3. 学習成果の活用についての意識化

歴史的背景を学び、現状を理解し、将来の変化のなかで自ら情報を得ていくことの必要性を具体的事項の学習において強調してきた。また、今年度も中盤での授業時間外での地域情報の収集において保護者などなんらかの立場や状況を想定して収集させている。昨年度情報内容に焦点化したシート記入の受講生がいたことから、今年度は特に情報源に注意が向くように指示をし、シートを工夫した。

以上のようなことから、最後の学習内容の活用について問うた最終課題で、自身の今後の進路などをふまえての回答を促した。結果として、「保育者として」「教師として」「家庭科教師として」「地域住民として(親の立場、青年の立場)」など、それぞれの専攻を反映した記述がみられた。

4. 地域社会を核とした教育と研究のつながりについて

これまでの保育学研究室における地域子育て支援や保育に関する調査研究をふまえ、松山市や愛媛県および出身県における保育・子育て支援の最新の情報を収集する課題を課した。その際には、情報内容だけでなく、情報を必要とする何らかの立場を想定させ(転居し知人のいない親、教師、保育者など)情報入手の過程を意識化し記載させることで、多様な状況の生活者を想定し、保育学習への活用や情報弱者を生まない福祉のあり方についても考えさせるようにした。学生はネット情報が主で、地域の児童館・公民館などについての情報は少ないが、今年度は下宿生でも市の広報などの紙媒体の情報をキャッチしている例があり、これを全体化するなどした。卒業後も、変化する地域の福祉関連情報を入手する必要性を理解できるような学習機会を保障していきたいと考える。